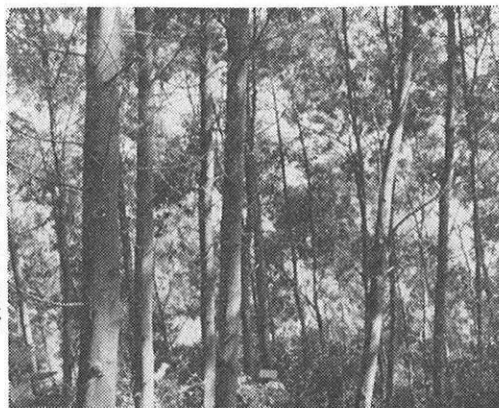


天草暖地林業のホープ……

# モリシマアカシヤ



今、このモリシマの林相がかなりのスピードで天草全島に拡がろうとしている。

## ■ヤセ地への福音

天草は土地がヤセている。気候は温暖だが年間雨量は千八百ミリ程度で、全島第三紀層からなり、島の林野面積（六万畝）の一割がセキ悪林地というわけ。このような悪条件の中で、内陸のような林業経営をやるものなら、十年も二十年も遅れ、所得格差はますます増大するばかり。そこでまず農地の改良ということが大きな課題となり、それにマッチした樹種—モリシマアカシヤが選ばれたわけである。

## ■モグラを呼ぶモリシマ

モリシマは、マメ科のアカシヤ属。常緑広葉樹で成長が非常に早い。同じ林地に、同時に植えたクロ松との比較で、満五年もので三十倍の材積があったというからまさに驚異的である。又、モリシマを植えてから三年目から、林内の松が急速に伸びたことで、土壌が改良されつつあることがわかった。もう一つ面白い話

## <愛らしいモリシマの花群>



を。ヤセ地には地方動物は少ないといわれているが、モリシマの林には相当数のモグラが生息している。これはモグラの食物が増加したことを意味し、つまり土地が肥沃になってきたことを立証しているわけである。

モリシマの栽培により、島国特有の禿山は遠からずなくなり、今まで危惧されてきた災害の問題もなくなるとすればモリシマの果す役割は相当大きいものとい

わねばならない。

ところでモリシマの用途が最近注目されはじめてきた。パルプ材としての契約栽培も行なわれてきたし、樹皮のタンニンは性分が優れているので、従来まで外国から輸入されてきたタンニンにとつてかわるだろうといわれている。その他に、用材としても薪炭材としても有望視され、肥料木としてのモリシマは一躍、魅力ある「暖地林業のホープ」となりつ

つある。

## ■島の人々への贈物に

五月の中旬頃になるとモリシマの花が一斉にむらがり咲く。うす黄色の小さな花だが、香りが高く、それが谷間風に乘って、山里の人々の心をなぐさめる。

モリシマが天草のヤセ地を肥沃な土地に変えうるか、又旺盛なその成長力が果して島の生活を支える一つの力となりうるか、問題は今後の努力にかかっているようである。(K)

## 編集後記

林業の構造改善事業が、いよいよ具体化しつつある情勢の中で、本県林業の実態と問題点の解明は時機を得た企画だと信じ、本号は「熊本林業特集」としました。

取材、編集作業に先立って、特に林務部との連携を保ち、資料の確保、座談会の実施については全面的な協力を得て、一応熊本林業のアウトラインは網羅できたつもりです。

皆さんのご意見をどうぞお願いします。次号は観光問題特集を企画して、目下その準備を進めています。皆さんからのご意見やアイデアをこの際沢山頂きたいものです。

(施設紹介)

## 熊本県林業研究指導所

内部の活動は、研究部で林業の応用試験を中心とした試験研究が行なわれ、これらの成果が指導部で普及指導されていくという仕組み。研究は、優良個体の抜、樹苗の育成、林地肥培の試験、病害虫の研究などエリアがかなり広く、これと平行して講習会や研究会なども活発に開かれている。



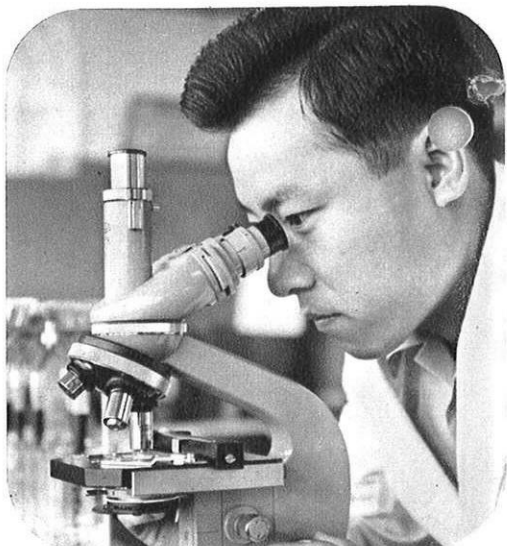
上・熊本市の立田山麓にある試験場



上・モリシマアカシヤの精英樹の空中取木



上・精英樹の種子の発芽等の研究にもウエイトが…



上・樹木の敵、イザリヤ菌の生態を研究する  
下・しいたけの品種適応の試験も



左・県下の土壌を分析して適地植林のためのデータをつくる

